

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 大山 敏 会員数 約1,000人)

T E L 03-3958-0121

1 前 文

出題内容は学習指導要領に掲げられた教科・科目のねらいおよび内容におおむねそくしており、基礎・基本を重視したものとなっている。平易な問を中心に高校生が学習した知識や涵養した思考力に基づき、考えて解いていく工夫が施されている標準的な問題である。ここでは後期中等教育を与る現場からの意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

全体をとおして質・量ともに共通テスト初年度となった昨年度と同程度である。「倫理」、「政治・経済」のバランスもとれており、安定した出題である。読ませる量が多いのが特徴だが、単に知識を問うのではなく、思考力判断力を問う以上、避けられないだろう。多様な意見を対話によって合意形成を図るという公民科学習の性格でもある。学習指導要領にのっとり、基礎的基本的な知識を確認する問や確かな基礎的基本的な知識に基づき資料等を読み込み「倫理」や「政治・経済」で学んだ思考力や判断力を駆使して考えて解く問を中心に構成されている。平易でありながら考えて解く工夫がなされている点は評価されるが、リード文と問いとの有機的な結びつきが薄く、各問だけ読んで解いても正答が得られる問いが多く残念だ。しかし、なるべく正しい選択肢や最も適当な選択肢を選ぶように問を設けているなど留意されている。「倫理」学習の成果としての知識がなくても、いわば国語力で解ける問が一定程度存在することについては、賛否両論がある。とはいえ、「倫理」学習で涵養された思考力判断力はどこまでが公民科学習の成果であり、どこまでが国語科学習の成果であるか、判断はつかない以上、国語力を問うているのではないかと批判されても読解力を問う必要はある。

以下、各設問について意見と評価を申し述べる。

第1問 「倫理」から源流思想について、基礎的基本的な知識と、確かな知識に基づき、資料読解等による思考力判断力を問う。

問1 ソクラテスの助産術、預言者ムハンマドとクルアーン、スコラ哲学における神学と哲学の地位、ブッダの平等思想等についての基礎的基本的な知識を問う。

問2 人間としての生き方を主題に源流思想についての基礎的基本的な知識を確認する。①アリストテレスにおける思慮についての説明なので正文とわかる。②キリスト教における三元徳は信仰と希望と愛であることから誤文とわかる。③イエスの黄金律は「己が欲するところを人に施せ」ゆえに誤文とわかる。④忍辱は六波羅蜜のひとつであるから大乘仏教の求道者に求められるところだが、ブッダの教えである慈悲の実践を控えるとは解せないことから誤文とわかる。

問3 マルクス・アウレリウスとストア派についての基礎的基本的な知識と資料として示された『自省録』の読解力を合わせて正答を導く思考力判断力の問。

問4 『老子』と『旧約聖書』についての基礎的基本的な知識と資料として示された内容読解力を問う。しかし、実際のところ①～④を見ると③で「旧約」という言い方がキリスト教の側

からの見方であって、ユダヤ教では『聖典』であることから③が正答とわかる。せっかく資料を示しているのだから読解力を問う問いにした方がよいのではないか。

第2問 「倫理」から日本思想について、基礎的基本的な知識と、確かな知識に基づき、資料読解等による思考力判断力を問う。

問1 憲法十七条についての基礎的基本的な知識を問う。

問2 本居宣長の真心についての基礎的基本的な知識に基づき具体例と結びつける力を問う。偽りのない心、素直な心、生まれながらの心という真心にそくした説明を拾うと正答③に至る。

問3 近代日本における社会主義と自我の形成について基礎的基本的な知識を問う。北村透谷に至っては文学史の問いでもある。広く後期中等教育の教養を身に付けていれば常識で解ける問。安部磯雄は同志社に学びキリスト教的人道主義に立ち、議会主義に基づく社会主義運動を続けたことからアは安部磯雄とわかる。

問4 阿部次郎『三太郎の日記』の一節を資料として示し、資料の読解と阿部の人格主義とを重ね合わせて理想と現実について考えて解く。

第3問 「倫理」から西洋哲学についての問題。

問1 現代における思考停止状態を考える問。高校生が生きる現代社会への出題者からの警鐘でもあり意義深い問いとなった。①から③までは事例として考えられるが④だけが異なることで正答とわかる。良問。

問2 ロックについての基礎的基本的な知識を問う。『人間知性論』と「白紙(タブラ ラーサ)」からロックとわかる。

問3 ヘーゲルの弁証法についての基礎的基本的な知識を問う。アは正文だが、イは「真理に近い方を保存し、他方を廃棄して」とあるところで決定的に止揚の説明としては不適切と判断できる。

問4 第3問全体のまとめとしての問。読解力を問う。

第4問 「倫理」から現代倫理や青年期についての問。

問1 資料文の読解に基づくハンス＝ヨナス未来倫理の問。科学技術の進歩が人類滅亡へと向かわせることから、aは核兵器についてのラッセル・アインシュタイン宣言と結び付けて⑤と⑥が候補となる。一方、私たちの行為と技術が未来に及ぶという記述からbは①、③および⑤が候補となる。

問2 デジタル・デバイドの具体例を選ぶ基礎的基本的な知識を問う。

問3 子どもの発達や養育について、家族機能の外部化、レヴィンのマージナル・マン、思春期と第二反抗期、エリクソンとアイデンティティの確立を問う。

問4 資料と会話文を読み取る力を問う。資料で示されたジェイムズ『人類の子どもたち』はディストピア小説として読んだ高校生もいれば、映画『トゥモロー・ワールド』として鑑賞した高校生もいるだろう。青年期の問題をコールバーグの道徳的判断の理由付けに基づいて考えて解く思考力判断力の問。

第5問 「政治・経済」から高校生が地元のまちづくりの取組みに関心をもつという設定のリード文を読み、政治思想、地方自治の原則、政教分離の原則と判例、国民の権利と公共の福祉による制約、農業、規制緩和、民法、参議院のみなし否決について問う。

問1 地方自治に関する文章を読み、団体自治の分権的な意味と住民自治の民主主義的な意味を問う思考力判断力の問。

問2 政教分離についての最高裁判例を問う。

- 問3 日本の農業について，農地法，農業基本法および新農業基本法の内容を問う。
- 問4 民泊を事例に規制緩和と新規参入について会話文を読み考えて解く，思考力判断力の問。
- 問5 民泊を事例に民法と消費者問題について基礎的基本的な知識を問う。
- 問6 国会についての基礎的基本的な知識を問う。法律案の発議，参議院のみなし否決，法案の署名について問う。
- 第6問 「政治・経済」から経済主体の関係を示す図に基づき，企業，経済主体間の関係，機会費用，金融政策，バランスシートの読み取り，労働問題，需要供給曲線の読み取り，購買力平価について問う。
- 問1 企業についてコーポレート・ガバナンス，リストラクチャリング，株主配分，内部留保，新型コロナウイルス感染拡大と企業業績，会社法について基礎的基本的な知識を問う。正答③の選択肢の表現は安易。③を誤りとするなら売上げを伸ばした企業がひとつもないことを証明しなければならず，共通テストの選択肢の設定としてはあり得ない。高校生はこの手の選択肢の表現を見抜く力は備えているので，内容ではなく表現から③を選ぶ。問題作成に際し気を付けたいところである。なお，この手の指摘はかねてから何度も繰り返してきたところであるが，歴代の問題作成にあたる先生方には継承されていないように感じられる。
- 問2 機会費用の説明を読み，理解しているかを機会費用の考え方の具体例にそくして空所を補充することで確認する思考力判断力の問。
- 問3 金融政策に関して公開市場操作についての基礎的基本的な知識を確認する問。近年の金融政策にそくして出題するとあきらかに高等学校での学習の範囲を超えてしまうことから，いくら工夫してもこの程度の間になってしまう。
- 問4 銀行のバランスシートを用いた金融に関する基礎的基本的な知識を確認する。ただし，商業科目ではなく，「政治・経済」として出題することから，説明や図を読み取り考えて解く工夫が施されている。
- 問5 会話文の読解に基づき，需要供給曲線を用いて，需給関係を理解できているかを問う思考力判断力の問。丁寧に追っていけば正答は得られるよう工夫してある。
- 問6 購買力平価と実勢レートを比較する問。説明を丹念に追う手間が面倒ではあるが，丁寧に追っていけば正答は得られる。何が問われているのか，丁寧に読まないで答えを探すと，購買力平価や為替レートについて理解しているのに取りこぼす生徒が少なからずいた。
- 第7問 「政治・経済」から政策決定過程に住民がどれほど主体的に関われるかという調査発表を生徒が行うという状況の中で，地方自治の変遷，選挙，社会保障と地方自治，地方財政，企業の取組みなどについて問う。
- 問1 第二次世界大戦後の日本の地方自治の発展について問う。
- 問2 地方分権一括法に象徴されるように地方自治について国との上下関係から対等な関係へと変わったことについて基礎的基本的な知識を問う。
- 問3 地方財政について基礎的基本的な知識に基づき資料から判断する。
- 問4 企業の取組みについて，スケールメリット，雇用のミスマッチ，トレーサビリティ，ノーマライゼーションを問う。